

ミッションステートメント

○提案課題名

「岐阜大学流域水環境リーダー育成拠点形成」

○総括責任者名

「森 秀樹」

○提案機関名

「岐阜大学」

(1)計画構想の概要

岐阜大学学長の統括の下に、流域水環境の教育と研究に携わる工学研究科(修士・博士課程)、応用生物科学研究科(修士課程)、及び連合農学研究科(博士課程)の諸専攻、さらには流域圏科学研究センター、地域科学研究科、留学生センターなどの部局を有機的に連携することにより「岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム」を構築する。育成対象者は「流域水環境動態計測評価領域」、「水質計測・評価・水処理領域」、「流域環境生態評価・管理領域」、「流域環境政策・管理学領域」の4つの領域において、日本の優れた環境技術を発展途上国で応用可能な形で習得し、終了後に諸国で流域水環境の問題の解決と施策立案に活躍できる人材(国外リーダー)、途上国の課題に対応した流域水環境の技術開発と政策推進に当たる人材(国内リーダー)を育成する拠点の形成を行う。

(2)3年目における具体的な目標

3年目には、国外リーダーと国内リーダーの育成対象者をそれぞれ修士課程(2年)で29名と11名を受け入れ、流域水環境の政策立案、施設管理・運営、国際協力策の立案・実施などの政府行政管理部门、環境施設設計・施工・管理・運営などの環境関連企業で活躍できる国外リーダー17名と国内リーダー7名を輩出する。また、修士課程修了生の中から、特に優秀な外国人修了生3名、日本人修了生1名を博士課程(3年)に進学させ、発展途上国や地域が直面する流域水環境の問題を的確に見出し、戦略的解決策の設計できる高度な人材として養成する。修了生に対する継続教育・支援を講じるため、帰国後2年以上勤めた修了者に対し、短期研究留学生として延べ5名以上を受け入れるとともに、国際ワークショップを2回開催し、諸国の新規環境問題に関する提案型共同研究プロジェクトを3件選定して実施する。

(3)実施期間終了時における具体的な目標

5年目には、3年目の達成目標に加えて、国外リーダーと国内リーダーの育成対象者をそれぞれ修士課程(2年)で22名と8名を受け入れ、国外リーダーと国内リーダーとしてそれぞれ24名と8名を輩出する。また、修士課程修了生の中から、特に優秀な外国人修了生6名、日本人修了生2名を博士課程(3年)に進学させ、発展途上国や地域が直面する流域水環境の問題を的確に見出し、戦略的解決策の設計できる高度な人材として養成する。修了生に対する継続教育・支援措置として、帰国後2年以上勤めた修了者に対し、短期研究留学生として延べ10名以上を受け入れるとともに、国際ワークショップを2回開催し、諸国の新規環境問題に関する提案型共同研究プロジェクトを3件選定して実施する。

(4)実施期間終了後の取組

実施期間終了後は、岐阜大学長のリーダーシップのもと、部局の連携と協同を継続的に強化し、大学組織として岐阜大学流域水環境リーダー育成システムの維持・運営に努めるとともに、修了生を含む関係者による人材交流・相互扶助ネットワークの強化、民間・自治体等との連携・協力の強化等を通して、本拠点プログラムの更なる発展を図る。

(5)期待される波及効果

環境リーダーの活躍により、発展途上国が直面する様々な流域水環境問題の軽減と将来起こりうる新しい環境問題の発生防止が実現され、人材育成を通じた国際貢献が期待される。また、環境リーダーと講師・研究指導者として迎えた企業や行政の実務経験者との交流関係が強化され、日本の先進な環境技術の海外展開と環境技術を通じた国際貢献がこれまで以上に期待できる。